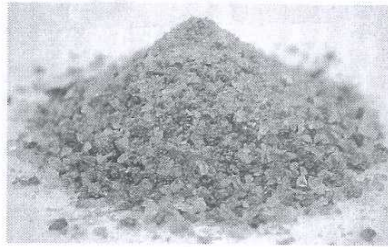


環境ビジネス 新事業&新分野

トーエイ



東浦町に本
社を置く総
合廃棄物処
理業のトー
エイ(今津
昭社長)が
製造したも
の。この
ほぐ外部の
検査機関に
委託してそ
の効果が検
証された。
同社による

ゲリラのな集中豪雨へス砂)による雨水対策工
の対策が急がれる中、今事が、東浦町役場の駐車
夏、廃ガラスを再利用し、場の一部で実験的に行わ
たガラスカレット(ガラ

と、透水性アスファルト
の水はけが向上し、さらに
に路面温度も従来舗装に
比べて五度ほど下がるとい
う。良好な結果が出たとい
う。
近年は、ワインなど色
付きガラス瓶のお世話に
なることも多いが、さま
ざまな形状をした緑や青
など色付きのガラス瓶
は、再び瓶としての再利
用が難しいことは意外に
知られていない。現在は
大半を埋め立て処分せざる
を得ず、リサイクル方

ガラス瓶を舗装材に再生

貯水機能で路面温度下げる



東浦町役場で行われたガラスカレットを用いた雨水対策工事

から本格的
に稼働させ
ている。今
夏、東浦町
役場の駐車
場で行われ
たアスファ
ルトの舗装
工事は、カ
レットを主
とした。気
化熱でアス
ファルトの
温度上昇を
抑えられる
。役場駐車
場の検証で
は、通常の
アスファルト
舗装に比べ
ると、五度
程度路面
温度が低く
なることが
分かった。さらに路上の汚
れた雨水が土中にゆっく
りと浸透する。これにより
、きれいな水に戻る。こ
れが、透水性アスファルト
舗装された
。廃ガラスのリサイクル
事業はまだ始まったばかり
だが、同社のガラスカ
レットは今年、半田市内
の民間駐車場の舗装工事
などでも使用が予定され
ているという。同社では
「環境にやさしい製品と
して積極的に提案してい
く。新規事業として次年
な集中豪雨への対策。透
水中には軌道に乗せた
水舗装したアスファルト
の下にガラスカレットを

法の確立が社会的な急務
になっていく。
知多半島で総合廃棄物
処理を手掛けるトーエイ
も廃ガラスを活用する課
題に取り組み、環境にや
さしいリサイクル手段を
探し続けてきた。その結
果、廃ガラスを砕いて駐
車場などの舗装材料とし
て再商品化する方法が最
適と考え、独自のノウハウ
を持つ廃棄物処理ベン
チャー企業のカラス・リ
ソーシング(千葉県銚子
市)と提携提携。〇五年

九月には東浦町内に、東
海地区で最大級の「ガラ
ス再商品化施設」を建設
した。
再生施設も建設
施設は、ガラス瓶やガ
ラスくずを特殊な破砕機
で砕いてガラスカレット
(ガラス造粒砂)に再商
品化するもので、八時間
稼働で日量四百トンの処理
能力がある。容器包装リ
サイクル協会のガラス瓶
再生処理施設にも登録
し、新規事業として今春

モ
本社「東浦町藤江ヤンチャ28
」1/電話「0562・833・
3880」売上高「20億円」従
業員「170人(パート含む)」

(大府)